

令和4年(2022年)9月14日開催 名寄市地域公共交通活性化協議会 専門部会検討結果

コミュニティバス西まわり線の令和4年10月からの減便について

■経過

令和4年3月28日

名士バス(株)から名寄市地域公共交通活性化協議会へ10月からコミュニティバス西まわり線減便の要望書を提出

- ・減便の理由は運転手不足。
- ・コミュニティバス全体の利用者は減少しており、一方で市の補助金支出が増加している。
- ・対応については協議会内に専門部会(藤田健慈部会長)を設置して議論することとした。

■対応

令和4年4月28日 専門部会を開催

- ・コミュニティバスの現状を確認と、デマンドバスなど新たな交通モードの事例を研究。
- ・以降、5月～8月に掛けてデマンド乗合いバスなど、新たな交通モードを道内先進自治体やシステム会社から情報提供を受けて研究を進めた。

■公共交通のおかれている背景と意義

- ・人口減少、運転手不足により公共交通サービスの維持が困難
- ・日常生活を支える公共交通の確保する重要性
- ・より乗りやすく、便利な公共交通の再編が必要
- ・高齢者にやさしいまちづくり(免許返納しても移動に困らないまち)
- ・持続可能なまちづくり(ドライバー不足の課題解決)
- ・にぎわいのあるまちづくり(大学生、高齢者など潜在ユーザーの発掘)

■総合計画(第2次)後期計画(R5～R8)市長ヒアリングで協議

コミュニティバス西まわり線減便(10月～)とそれに代わる新たな交通モードを検討していく。

【新たな交通モードの一例】・・・DX活用型のデマンドバスとは

- ・一定のエリア内で自由に移動(仮想停留所やドア to ドア)
- ・電話やスマホアプリで予約、配車
- ・乗合で移動するからコスト低減
- ・AIによる移動ルートを最適化
- ・全国で導入・検討する自治体が増加

■市議会への対応

9月12日(月) 名寄市議会 総務文教常任委員会で今後、専門部会、協議会に提案することを報告

■専門部会の結論

協議会で10月減便と、新たな交通モードの検討について提案する。

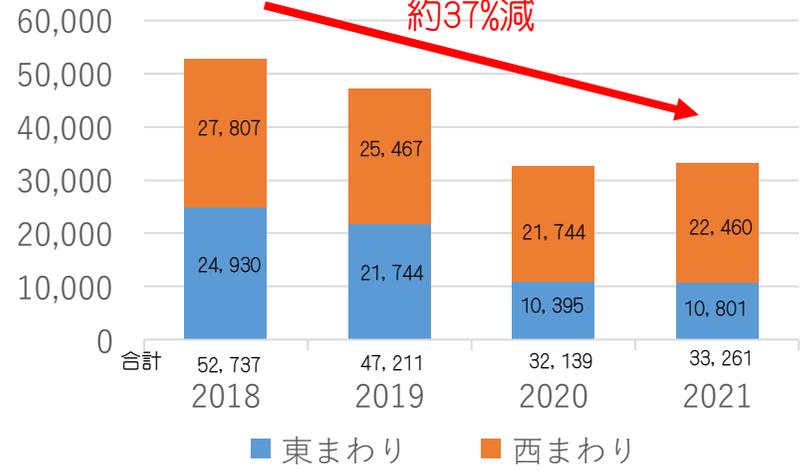
- ・以降、了解が得られれば地域が置かれている状況、都市構造、地域特性、都市計画との連携、施設の立地、人口の分布状況を分析する。
- ・新たな交通モードと地域とのマッチングを整理して、名寄市にフィットした導入を検討する。
- ・令和5年度中の実証実験に向けて準備を進める。

減便に対する新たな交通モードの検討状況について

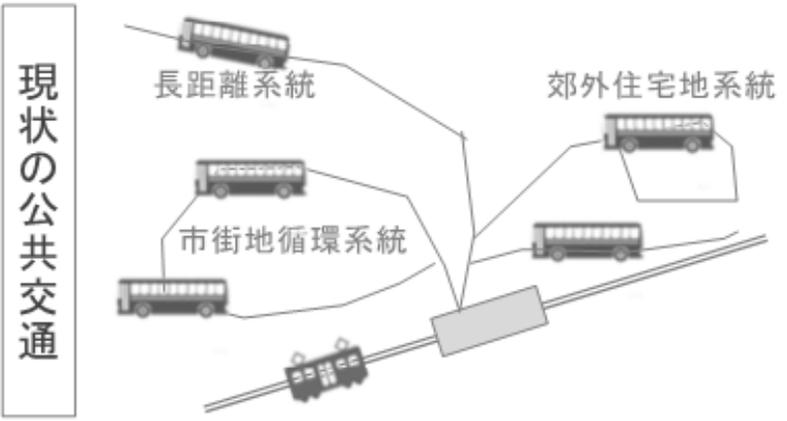
背景

コミュニティバス利用者の減少

2018年から2021年
約37%減



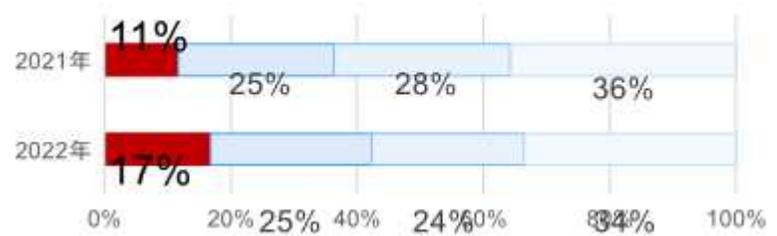
小規模自治体では、自治体コミュニティバスも運営難。
名寄市ではコミュニティバス西まわり線が11便→2便に減便
原因は運転手不足とのこと。(名土バスの説明)



これからの公共交通に求められる意義

多くの自治体が公共交通のコストや利便性の問題意識を抱える中、
運行リソースの課題も表面化

現状の公共交通への課題(複数回答)回答割合



- 運行リソース(乗務員・車両)が不足している
- 利便性がわるい
- 運行コストが高い
- 利用者が低い

2022年 民間事業者実施のアンケート(総数125(自治体116/事業者9))

**高齢者に
安心のまち**

高齢者が免許を返納しても自由にお出かけができる

高齢化・免許返納率低

**環境に
優しいまち**

2台目マイカーを減らすことで経済的負担が軽減される

マイカー所有率高

**子育てに
優しいまち**

通学の足の確保
保育園や塾の送迎
子どもでも安心して利用できるサービス

通学難民

**交流を
生み出すまち**

ワーケーション・移住者や観光客の交通の不便さを解消し交流人口の増加を促進

人口減少

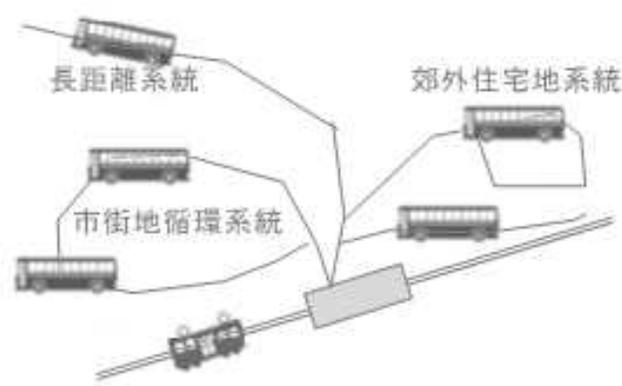
減便に対する新たな交通モードの検討状況について

【新たな交通モードの一例】…DX活用型のデマンドバスとは

定時定路線バスとタクシーの中間位置づけ。
 一定の区域内で自由に移動
 AI活用により高い輸送効率とデータ経営を実現

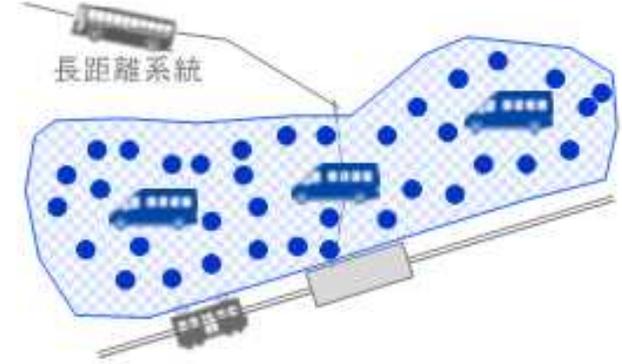


現状の公共交通



相乗りデマンド導入後

- ✓ 車両小型化
- ✓ 台数削減
- ✓ 運転収入増による事業収支改善
- ✓ 普通/中型二種活用で乗務員確保



減便に対する新たな交通モードの検討状況について

道内導入自治体の例

自治体	名称	システム	運行状況	エリア	運行時間	停留所	待ち時間 (平均)	車両	循環 バス	備考
富良野市	ちょいのり タクシー	mob i (コミュニティ モビリティ社)	実証実験 2021. 11. 21 ～ 2021. 12. 21	富良野駅 中心の半 径2km	8:00～ 19:00	217の仮想 停留所	11分	乗用車	有	
小清水町	ちょいのり タクシー	mob i (コミュニティ モビリティ社)	実証実験 2021. 12. 15 ～ 2022. 3. 31	中心部 2.5km	8:00～ 19:00	72の仮想 停留所	10分	乗用車	無	
室蘭市	ちょいのり 白鳥台	mob i (コミュニティ モビリティ社)	実証実験 2021. 11. 8 ～ 2021. 12. 3	白鳥台 1.7km× 1.8km	9:00～ 16:00 (平日のみ)	75の仮想 停留所	10分	タクシー 車両	有	交通空白地帯 をフォロー
南幌町	あいるーと	SAVS (未来シェア社)	2021. 10. 1 ～	町内全域	8:00～ 17:00 (平日のみ)	ドアto ドア	10分	ハイエース	廃止	大人300円 子供100円 WAONも可能
中富良野町	なかもび	SAVS (未来シェア社)	2021. 10. 1 ～	町内全域	8:00～ 17:00	ドアto ドア	5分 (多忙時 10分)	乗用車	廃止	大人200円 子供100円 ネット予約は 半額
厚真町	めぐるくん	SAVS (未来シェア社)	2021. 10. 1 ～	町内全域	9:00～ 16:00	ドアto ドア	5分～ 10分	乗用車	無	65歳以上と中学 生以下は100円 それ以外は200円

減便に対する新たな交通モードの検討状況について

導入事例

事例紹介① 富良野市 令和3年(2021年)11月21日～12月21日 実証実験
 ちよいのりタクシー 217の仮想停留所 システムはmobi(コミュニティモビリティ社)



子育て家族・高齢者の外出機会を創造

- ・利用者の**5割**が**10～50代** (子育て家族)
- ・利用者の**7割以上**が**女性** (主婦の利用が多い)
- ・毎日の買い物、駅までの送迎の代替で利用
- ・7割が**週1回以上利用** (内1.3%は毎日利用)

[効果]

商業施設や病院への移動が多く、若者から高齢者まで**幅広い層の生活の足**として利用。
 今後の子育て世代の移住者やポストコロナの観光者の移動にも期待。

子育て世帯が利用 (買い物、習い事、通学)

免許をお持ちでない高齢者や学生でも移動が楽に

広さ

2km × 2km

人口 (エリア内)

約**14,000**人

世帯数 (エリア内)

約**7,300**世帯

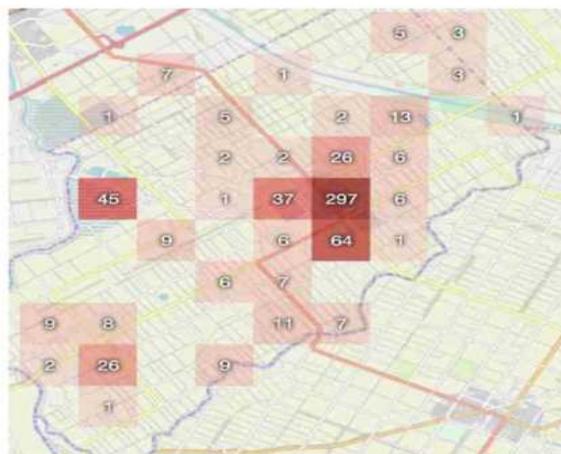
減便に対する新たな交通モードの検討状況について

導入事例

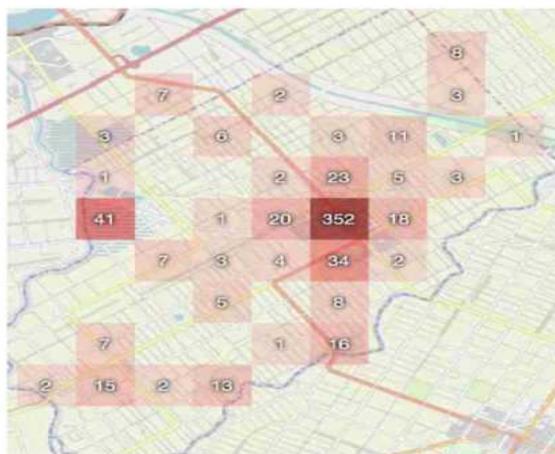
事例紹介② 南幌町 令和3年(2021年)10月から正式運行 完全ドアtoドア システムはSAVS(未来シェア社)

オンデマンド交通あいるーと 運行実績【令和3年12月】

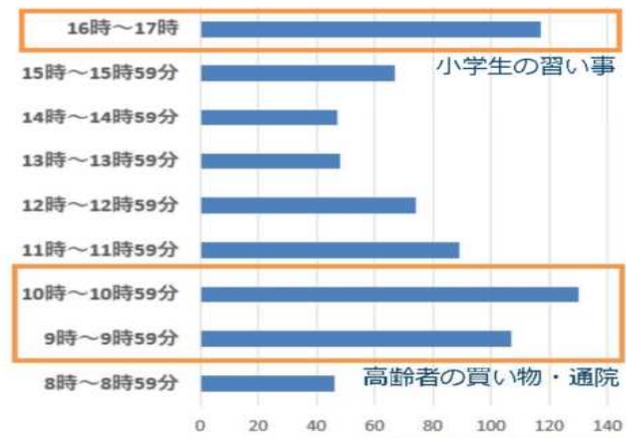
項目	実績	内容
利用者名数	・延べ 725名【1日当たり 36名】	♡内訳：幼児17名、 子ども108名 、障がい者101名、大人499名 ◆登録者数 301名 （R4.2月時点） ※巡回バスの1日当たり利用者…18名【+18名】 ※当初見込み…20名/1日
利用者数・回数	・実利用者数 137名	♡月あたりの利用回数 1～5回… 97名 、6～10回…26名、11～15回…3名 16～20回…6名、21～25回…4名、26～30回…1名
運行回数	・634回【一日当たり32回】	※内、乗り合わせ運行…278回（38%）
予約状況	・電話予約 646件（89%） ・インターネット予約 79件（11%）	※小学生利用の増加に関連し、インターネット予約の割合が増加傾向にあります。【保護者はインターネット予約が多い】



◆乗車位置分布



◆降車位置分布



◆時間帯別利用者数

減便に対する新たな交通モードの検討状況について

検討が必要な事項と期待される効果

1. 実施した場合の費用対効果

コスト面でどれだけのメリットを出せるか。

2. 事業スキーム

事業主体、事業者選定、料金設定、仮想停留所方式かドアtoドア方式か、など検討すべき点は多数ある。

3. 事業サイズ

今回減便する西まわり線の代替か、郊外地区、風連地区の運行検討の必要性など。

4. どれだけ利用してもらえるか

既存の利用者だけではなく、利便性の高い交通モードへシフトすることで、大学生や高齢者の潜在ユーザーの発掘は可能か？

課題がある中で、新たな交通モードで目指すべきまちづくり

高齢者にやさしい
まちづくり

高齢者が免許
返納しても、
住み続けられる
公共交通を確保



人口減少下でも
持続可能なまちづくり

車両のダウンサイジングで
ドライバー不足
の課題解決



にぎわいのある
まちづくり

高齢者、大学生
など潜在ユーザー
の外出機会を創出



子育てにやさしい
まちづくり

習い事など
子どもでも安心
して利用できる
サービス

